

開催日：平成 28 年 12 月 13 日

会議名：平成 28 年第 4 回定例会（第 3 号 12 月 13 日）

平成 28 年第 4 回広陵町議会定例会会議録（3 日目）

一般質問

○3 番（山田美津代君） 議長の皆さん、傍聴の皆さん、こんにちは。3 番、山田美津代です。

多くの中学生からおいしくない、老人食みたいと不評な中学校給食をぜひおいしい給食にという願いから質問をさせていただきます。

9 月 5 日から子供たちや保護者が待ちに待った中学校給食が始まりましたが、保護者や給食を食べた子供たちから聞こえてくる声は、まずかった、吐きそうになった、牛乳もめなくて飲めなかったとさんざんでした。このことを認識されていますか。

中学校給食センター「スマイル」は 4, 000 食の工場、この工場では手間暇かけることができないので、卵も 4, 000 個も一つ一つ割ることができなくて、冷凍の袋入りの液卵というのを溶かして使用しています。厚焼き玉子はでき合いを仕入れています。おいしさは給食の基本です。おいしいものを食べたい、食べさせたいと思うのは、子供たちや保護者の当然の願いです。子供たちからおいしいという声が聞こえない給食では、おいしく、安心・安全にという保護者の願いに一部背くこととなります。アレルギー調理室もつくり、アレルギーのある子供たちに万全体制と教育委員会は言っていたのに、卵アレルギーの子供がかきたま汁のときに除去食を食べていなくて、かきたま汁そのものを食べていないことも判明しました。その原因は、親の責任だけでしょうか。そこでお聞きします。

①おいしい給食を目指すためにどう改善をされますか。

②アレルギー対策は万全でしょうか。

③センター方式の弱点は。

質問事項 2、就学援助制度を前倒しで入学前に支給することを強く求めます。

就学援助制度とは、義務教育は無償とした憲法第 26 条など関係法に基づいて、小中学生が安心して勉学に励めるように、学用品や給食費、修学旅行費などを補助する制度です。支給時期は、早い自治体でも 6 月以降、本町は 7 月ごろで入学準備金が必要な時期に間に合わず、改善を何回か要望をしまいいりました。このたび王寺町が来年 3 月に支給を決められ、本町でも子育て支援貧困対策として 3 月支給をすぐに実施されるよう検討すべきだと思います。

質問事項 3、町の奨学金制度の拡大で学生を応援する体制を。

町の奨学金は平成 27 年度は 180 万円の予算で、支給されている高校生は 27 名でした。1 人年間 6 万円なので、予算の執行は 162 万円です。使い切っていないのです。現

状の月5, 000円支給のこの条例は、昭和36年につくられ、平成7年に改訂されてから21年経過しています。物価が上昇している今、そして子供の貧困が6人に1人という状況の中、この町独自の奨学金制度を拡大して、もっと支援することが要るのではないですか。そこで次のことを提案します。

- ①入学一時金を制度として確立すること。
 - ②大学生まで拡大すること。
 - ③年間支給額の引き上げと支給人数をふやすこと。
- 以上、3点よろしく願いいたします。

○議長（笹井由明君） ただいまの質問に対し、答弁をお願いします。

松井教育長！

○教育長（松井宏之君） 山田議員さんからは、質問事項3点、3項目全部教育委員会の関係でいただいておりますので、私のほうから御答弁申し上げます。

質問事項の1番目、おいしくない老人食みたいな不評な中学校給食をおいしい給食にという御質問でございます。

答弁としまして、一つ目の御質問につきましては、9月5日から給食を実施しまして、当初の段階では、いろいろな御意見をいただいておりますが、これらの意見も参考として、試食会も実施して改善に努めてまいりました。

また、3学期には生徒及び保護者に給食に関する御意見や感想をいただくために、アンケート調査の実施を予定しております。

このアンケート調査の結果を踏まえた上で、今後も安定しておいしい給食を提供できるように努めてまいりたいと考えております。

次の御質問につきましては、御存じいただいているとおり、給食センターでは、アレルギー対応の調理専用室を設置しており、専任スタッフを配置することにより、食物アレルギーのある生徒に対する配食にあつては、氏名を記入した個人別専用容器を使用し、チェックリストに基づく複数の目によるチェック機能の強化を図り、他の生徒の給食と混同しないようにした上で、適切な温度管理とともに、万全の体制をとるよう留意しております。

最後の御質問であります。センター方式、自校方式ともにおのおのメリット、デメリットがありますが、お尋ねのセンター方式の弱点といたしましては、万が一の事象が発生した場合などは、全校の給食が停止する可能性があります。

しかしながら、センター方式の最大のメリットである独立したセンターで食材調達、入札、衛生管理などを集中管理できることによる合理化、最新設備による調理作業の効率化と合理化、アレルギー対応調理室の設置による除去食、代替食への対応が可能となることに加え、研修見学スペースの設置による食育に関する取り組みが可能となるなどの利点を

最大限に生かしてまいりたいと考えるものであります。

続きまして、質問事項２番目、就学援助制度を前倒しで、入学前の支給を強く求めますという御質問でございます。

答弁としまして、就学援助制度は、議員御指摘のとおり、経済的理由によって、就学困難と認められる学齢児童生徒の保護者に対しては、市町村は必要な援助を与えなければならないとされています。本町の現在の状況ですが、毎年４月に全保護者宛てにお知らせを配布し、申請をお受けして、世帯の収入状況を把握し、小学校及び中学校の認定審査基準額によって７月、１２月、翌年３月の年３回に分けて、各学期ごとに支給させていただいているところです。

世帯の収入状況の把握は、該当年度の課税基礎となった前年中の総所得金額であり、今年度については、平成２７年度中の総所得金額により判定しています。

今回、王寺町が前倒しで実施されている内容は、入学準備金として支給区分の「新入学児童生徒学用品等」に限って、来年３月から支給されるものです。もともと王寺町の世帯の収入状況の把握は、前々年度の所得であり、今年度についても平成２６年度中の所得を審査基準にされており、このことによって、平成２９年度から支給時期の変更が可能になっているものと理解しています。

他の自治体においても、ほとんどが本町と同様に前年度の所得を審査対象とされているため、支給期日は６月から７月となっているものであります。

世帯の収入状況の把握については、直近の情報を基準とする現在の取り扱いが最善であると思われませんが、支給時期を変更させていただくことについては、近隣の自治体の状況なども踏まえて判断してまいりたいと考えるものであります。

続きまして、質問事項の３、町の奨学金制度の拡大で学生を応援する体制をとという御質問でございます。

答弁としまして、本町の奨学金制度は、毎年２月ごろ、各中学校から小学生として対象となる生徒を推薦いただきます。その年度によって人数は異なりますが、各学年おおむね１０名程度の決定となっております。しかし、昨年は退学したり、転出することとなって、途中で対象外となる場合もあり、御指摘のとおり現在は２７名の支給となっております。

御質問の１番目の入学一時金制度については、県内で実施している自治体は少なく、北葛城郡では河合町が高校生５万円、大学生１０万円の支給額をもって実施しているものと認識しております。

支給要件として、ひとり親家庭が受けている児童扶養手当の全額受給者等として、受給件数は毎年数件であると聞いています。ただし、河合町は奨学金制度はなく、入学一時金制度のみとなっております。

質問の２番目の大学生まで拡大することと、質問③の年間支給の引き上げと支給人数をふやすことについてでございますが、市町村独自の奨学金制度を実施しているのは、県内では本町を含め１５市町村で、そのうち高校生及び大学生を対象としているのは、１０市

町村となっております。

ただし、この15市町村のほとんどが将来返還を求める貸与として支給しており、本町は返済不要の給付として支給させていただいているものです。

支給対象者の拡大や年間支給額の増額、新たな入学一時金制度の設立につきましては、他の市町村のように仮に一部でも貸与して実施するのか、現状のとおり給付と位置づけて制度を存続していくのか、また支給額の増額についても今後の研究課題とさせていただきたいと存じます。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（笹井由明君） それでは、項目ごとに再質問願います。

3番、山田さん！

○3番（山田美津代君） まず初めに教育長の答弁の中に、3学期にアンケート調査の実施を予定しているとあるんですけども、以前に池端事務局長が2学期後半に実施するというようなことを私聞いた覚えがあるんですけども、これ3学期に入ってすぐの予定でございませうか、2学期後半ではなくて3学期になるんですね。

○議長（笹井由明君） 池端教育委員会事務局長！

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） 私、従前申し上げましたのは、まず給食がスタートした、この5日からですけども、1学期が終了してという内容でございました。できるだけ早くワンサイクル、この12月で一定給食が2学期終わりますけれども、今段取りにかかっているわけですけども、できるだけ早い時期にさせていただきたいと。実質的にはどうしても3学期になるのかなというところでございます。

○議長（笹井由明君） 3番、山田さん！

○3番（山田美津代君） ぜひ早く改善できることは改善していただきたいので、アンケートを早くとっていただきたいというふうに思います。

これ同じ民間委託なんですけれども、小学校と同じメニューでもセンターの給食がおいしくないという子供さんの声があるんです。違いは、自校方式かセンター方式かになるわけです。おいしいという声が聞こえないのはなぜなのかというのを教育委員会は真剣に考えたことはおありでしょうか。教育委員会は、給食を実施してほしいという要望をかなえるために、約12億円をかけて立派な給食センターを建ててやったのにおいしくないと言われる。牛乳がぬるいと文句を言う。そういう子供たちが悪いと思っているんでしょうか。我慢して食べるというんでしょうか。センターでは、和食を主にしていて、家庭の味と違

うから子供たちがこういう薄味や和食になれていないのでは言われますが、初めて食べたものでもおいしいものと出会えれば、子供たちからお母さん、きょうの給食おいしかったからつくってと言わせるのではないのでしょうか。

では、なぜ小学校の給食はおいしいのでしょうか。4,000食のセンターは、食事をつくる場でなくなっているのですか。センター方式は、物をつくる工場だと運営委員会でも委員長が言われていました。卵を4,000個割ることはできないので、液卵といって、壇上でも申しあげましたけど、卵を溶いて1キロ入りの袋に入れ、冷凍させているものを水で解凍して使っているとの説明が試食をしたときにあり、現物も見ました。試食は卵がたくさん入っていたかきたま汁でしたが、私には卵の味はしなかったんです。他の学校の調理員をしている友人の話では、自分が仕事で行っている学校は自校方式なので、もちろん卵は割って使っている。センターで働いたときも1,200個だったら割っていたということでした。1,200個だったら生の卵を使って、おいしい卵の味がするかきたま汁がつくられているんです。自校方式、または広陵町だけのセンターなら割った卵を使用したはずだと思います。4,000食の弊害がここにあらわれていると思います。町長が先ほど八尾さんの答弁でも述べられた奈良モデル、香芝市との共同は奈良モデルで、県から有利に融資が受けられて、でも4,000食という大規模なセンター工場というしわ寄せは子供たちが受けているんじゃないですか。この厚焼き玉子の献立、私この液卵を使っているんだよと聞いたら、じゃあその液卵を使って厚焼き玉子をつくっているのか聞いてほしいと言われて、栄養士さんに聞きましたが、厚焼き玉子はでき合いを仕入れて提供しているということでした。

そんなことをお母さん方は知らなかったわけです。きっと最新の設備で、最新式の給食センターでおいしい給食を調理してくれると、どの保護者も子供たちも思っていたと思います。ところが新しい給食調理センターではできないことが多く、でき合いのものしか提供できない、割る手間がかかる卵は、溶いて袋に入っている液卵しか使えない。これでおいしいものが提供できるはずがありません。センター方式を選んだ町長、運営委員会の中で初めから私はセンターいいですよと言われていた委員さん、3,367の自校方式でという保護者の願いを踏みにじった当時の議員たち、今保護者の間で、この選択をした責任を問う声が広まっています。三ツ星シェフがいろいろな事情で320食の小学校の給食調理員になり、魚くさいと不評だった魚のメニューを手間暇かけておいしい魚料理に調理して、子供たちが笑顔になるというテレビ番組が好評です。先日は、子供たちの嫌いなセロリをおいしく、こんなの食べたことないと子供たちに好評で、最高においしく調理していました。もちろんドラマですから、現実ではありませんし、320食の小学校だからできるのだと思いますが、手間暇かける、おいしく食べさせたいと知恵と工夫をすることは学べると思います。そこでお聞きします。

卵を4,000個割っておいしい給食ができるならそうすべきでしょう。それだけの人数をそろえれば、できるんじゃないですか。卵焼きを調理して提供するには、どれだけの

調理員さんがいればできるのですか。今、何人の調理員さんが働いておられますか。

○議長（笹井由明君） 松井教育長！

○教育長（松井宏之君） 今御質問の初めのほうに、おいしくないという言葉がえらいたくさん出ましたので、ちょっと御説明させていただきます。

今、中学生については、もともと小学校の自校方式、それは今の小学校でしたら民間に委託しましたが、そこまではやっぱり専属の調理員さんが学校のほうにおられたということで、各小学校において、それぞれ独自の味というものがそこまでは浸透していたという部分がございます。それで子供がなれていたという部分もあって、各小学校のほうでは給食がおいしいということがございました。今回、中学生につきまして、それぞれ直接話は聞かせてもらったりはしております。当初のほうは若干おいしくないというのは当然、牛乳も温かかったという意見もございましたが、その後何回か当然私のほうも試食もさせてもらい、意見も聞かせてもらって、いろいろ改善をさせてもらって、そういう意見がだんだん少なくなってきたというのは現状です。

特に、この間12月7日には、三役そろってそれぞれ中学校の教室の中に入って、子供と一緒に試食をさせていただきました。その中で当然直接子供みんなにそういう意見を聞かせてもらいました。その中で、担任の先生に私直接聞きましたけれども、給食がおいしくないという意見があるけれども、それはどういうあれですかと、逆においしいという意見はありますかとお聞きしましたら、子供たちはおいしかったら普通やと、おいしくなかったらおいしくないということで、おいしいという言葉が出てこない、普通かおいしくないかどちらかですよという話は私直接、担任の先生から聞かせてもらいました。子供に直接尋ねても、おいしいですかと言ったら、ちょっと首をかしげるというか、おいしくないという意見もなかったんですが、子供たちは実はそういう意見ということで、初めのほうはやはりちょっとおいしくなかったというのはあったけれども、最近はどうですかという意見を聞いたら、やっぱり最近はおいしいですと、普通という言葉が返ってきたわけです。その辺、試食ということもどんどんさせてもらって、かなり、カレーについても残食のほう、回数を重ねるごとに残食は少なくなっているというのも実態でございます。その辺は、子供たちの意見も十分聞かせてもらって、改善をして進んでまいっておりますので、今後については、おいしい給食というので全力を挙げて取り組んでいくということで御理解いただきたいと思います。

あと卵のほうは部長のほうから説明します。

○議長（笹井由明君） 池端教育委員会事務局長！

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） 卵について液卵というところでございますので、

その辺のところからちょっとお話を申し上げたいと思います。

液卵を使用しているというのは、確かに卵4,000個割ってできないかと言われたら、理論的には人数がおれば物理的には可能でございます。そういうことから調理のやり方まで時間的なものから全て逆算をしなければなりません。まず、液卵を使っている一番の理由というのは、殺菌のこの血統の卵ですけれども、これは国産の新鮮なにわとりの卵を衛生的に割って、殺菌をしているというところで異物の混入、からはもちろんですけれども、異物の混入というその心配がございません。何よりもまず、サルモネラ菌の検査済み、こういうところで安心ということでございます。食味については劣るものではないというふうに考えてございます。

それと冷凍の玉子焼きにつきましては、これは栄養士とか校長先生私ども初め、そう物資の納入業者、その選定の委員会で提案された商品のサンプル、こういったものを踏まえて選定というのか、納入をさせていただいております。もちろん企画についてもきちっとしたところ、価格も大事でございます。そういう状況でございます。

それと議員のお飲みをいただいたかきたま汁につきましては、お申し出をいただいたときに、私どもそういうことであれば漏れ落ちをしておれば、そんなんとんでもないことですので、早速確認をさせていただきました。お名前はちょっと申し上げられませんが、親御さんがその卵について、喉がちょっとかゆくなることはあるけれども、そういうアレルギーの対応は要らないというところにしっかり丸を打って、判こを押して出してきていただいているわけでございます。学校としましては、それ以上ちょっとその段階でもいかんともしがたいと。親御さんの理解の云々というか、そういうふうなところについても、これは確かに中学生になれば、大体自分で食べるものについて、自分で判断できますよというけれども、それだけでは万全ではございませんので、一つ課題をいただいたかなというところで、対応について教育委員会の部内でも親御さんが余りそういうことに関心を示されないと、ほったらかしというようなことではないんですけれども、それはまた違う問題になりますけれども、そういうふうなものについて、しっかり認識を持っていただくのにどうしたらいいんだというところ、一つ問題点でございます。申し添えさせていただきます。

人数は、現状東洋食品のほうで正社員が17名おられます。男性8名、女性が9名ということで、ただこの正社員17名のうち、専属の調理員という方、アレルギーの責任者とか、主任のお方とは省いて、全く卵を割って調理できるという先ほどの御質問からいきますと、調理員は正社員の中で調理を専属でやっていただくお方6名。パートのお方は男性1名と女性が39名、参考までに地元の雇用率は約80%というところで、配送員を省いて調理員は28名になります。ということで調理をしていただくお方が今現在、40名おられます。アレルギーの責任者とか、主任を入れるともう少しの数になりますけれども、調理専属でやっていただいている人数については、そのような状況でございます。障がい者雇用とか、従前の議会でもその辺のところどうなっているんだということで御質問もい

ただきましたけれども、給食センター、協議会といたしましては、東洋食品のほうにその都度状況を確認して、仮に障がい者の雇用率はどうなっているんだと、クリアしているのかというようなところ確認をさせていただいておりますので、そのこともあわせて申し添えさせていただきます。

○議長（笹井由明君） 3番、山田さん！

○3番（山田美津代君） まだ10項目ぐらい聞きたいので、簡潔にお答えいただきたいと思うんですが、調理は28名ということでもいいんですか。40名とどっちなのでしょう。ちょっとそれを先聞かせてください。

○議長（笹井由明君） 池端教育委員会事務局長！

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） 40名という御認識でお願いいたします。

○議長（笹井由明君） 3番、山田さん！

○3番（山田美津代君） 入札結果の資料が皆さんのお手元にありますけれども、予定価格は6億9,000万円に対して、東洋食品は税込み5億5,817万円で落札しています。他の業者のことも書いてありますけれども、技術評価点や価格評価点で一番高い東洋食品が落札したものです。予定価格の6億9,000万円に対して、大分安いですね。公契約条例の世界の話になりますが、東洋食品は仕入れで設けることができないので、人件費を削って利益を出さざるを得ないのであるのではないのでしょうか。適正の人数かどうかは、子供たちのおいしくないという言葉でわかると思うんです。このことでやはりもうちょっと適正な人数というものを考えを御検討いただけないかなと思うわけです。

それとこの献立の表も10月のをつけておいたんですが、資料の中に、この10月の献立表の中での和風ハンバーグ、春巻き、肉だんご、キャベツ、メンチカツ、白身魚フライ、鶏空揚げ、この中で幾つ手づくりされているのでしょうか。

○議長（笹井由明君） 池端教育委員会事務局長！

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） 幾つ手づくりされているかというのは、ちょっと私今ここで答えするあれを持っておりませんので、また委員会のときにでもお答えをさせていただきますと思います。

○議長（笹井由明君） 3番、山田さん！

○3番（山田美津代君） また教えてくださいね。

次の谷さんの質問の中にもありましたけれども、小学校の給食もメンチカツから異物の金属が混入されていて問題になりましたけれども、小学校の給食も民間になり、どうして入ったかというのはまだ原因は不明という、前に議員懇談会で説明がありましたけれども、手づくりだったら、こんなことはなかったんじゃないかなと思います。センターでもしこんなことがあったら、000食とまってしまうよね。もしセンターでこんなことがあったらどうされるのでしょうか。代替食はどういうふうにするおつもりですか。

○議長（笹井由明君） 池端教育委員会事務局長！

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） センターで、そういう異物が混入した場合も危機管理マニュアルに沿って対応するということですが、センターで実質的には、冷凍の食品であるとか、加工の食品であるとか、その製造業者のほうで金属探知機であるとか、そういうふうなものを衛生基準をクリアする内容、そういう工場で生産をされたものを仕入れておりますので、実際にそういうことがあったら困るわけですが、事実今言われておられたようにメンチカツの中に異物混入というようなこともございました。その内容によりまして、急激に食事が提供できないというようなことになれば、非常食の備蓄の関係等でも現実の問題、時間的に対応ができるかというような問題がございますけれども、考えていかなければならない問題だと認識をしております。

○議長（笹井由明君） 3番、山田さん！

○3番（山田美津代君） どんなものを提供するか、代替食で。それは決まっていないのですか。

○議長（笹井由明君） 池端教育委員会事務局長！

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） 谷議員のところでもお答えをさせていただくようには準備をしておるんですけれども、今、お答えしてよろしいでしょうか。

○3番（山田美津代君） 順番さえよければ。

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） 今、非常食というか、備蓄しておりますのは、アルファ化米とか、水を入れる、湯を入れるというところで湯のほうが早くできますけれども、そういったもの、あと乾パン類ですね、そのようなものがございます。おかげにつき

ましては、ちょっとまだ、非常食ですので、今現在備蓄についてはそこまでまだいっておりません。

○議長（笹井由明君） 3番、山田さん！

○3番（山田美津代君） おいしい給食をつくるための努力ということを試行錯誤を重ねていただきたいと思います。先ほど教育長は、子供たちに聞いたら普通やと。やっぱり優しい子供たちだから教育長の前でまずいとは言えなかったんじゃないかなと、普通という言葉で返したん違うかなと思うんですけれども、おいしくなかったら栄養にもならないんですよ。できないからやらないということなら4,500円の給食費を保護者は払っているんですから、それが無駄になりますね。ですからおいしい給食をつくるということを何とか努力していただきたいと思います。

それで、例えば液卵、先ほど衛生的には完全やということを言われていましたけれども、やっぱりいつのものかわからない卵ですし、やっぱり味としたら生の卵を割ってつくるよりは、そりゃ落ちるわけなんです。それを例えば4,000食を卵を割る調理員さんを確保するのが難しいのだったら、2,000個だったら割って半分普通の卵を割ってつくるとか、何かおいしくつくるという努力、知恵と工夫でできるんじゃないですか。でも9月から12月で3カ月たっていますから、調理員さんももうなれてきておられると思うんです。ですから、調理の手順とかも大分飲み込んできておられるので、ここでもう一つ知恵と工夫でもっとおいしい給食を提供できる、そういう試行錯誤をする準備というか、お金とそれから時間をかけて、そういうことを考えていただきたいと思います。そこはいかがでしょうか。

○議長（笹井由明君） 松井教育長！

○教育長（松井宏之君） 今、山田議員もおっしゃったとおり4,500円という給食代をいただいております。それとやはり子供たちの食育といいますか、それも考えてやっぱり残食というものを残さないような献立を当然つくっていかねばならないという部分がございますので、今おっしゃってもらったとおり、献立については、やはり子供の残食というものが少しでもやっぱり少なくなるような形の献立をつくっていかねばならないというのは基本かと思っておりますので、その辺については、今後アンケートも、また子供の聞き取りも含めて、やはり子供に喜んでもらう給食を進めていきたいという形で思っております。

それと先ほどちょっと答弁が一つ抜けましたが、東洋食品の安く入札した関係で人件費というようなお話も出ておりましたが、東洋食品につきましては、葛城市のほうで4,100食、大和郡山市のほうで4,700食、三郷町で2,000食というような形で奈良

県下の方の各センターのほうで実績の上がっている会社でございます。それがこの入札の価格を割り出したということでございますので、その人件費を省いたという根拠では決してありませんので、正規の形での入札をいただいて、給食に従事していただいているというところですのでよろしくお願いしたいと思います。

○議長（笹井由明君） 3番、山田さん！

○3番（山田美津代君） ですから、4,000個を割る調理師さんを確保できないんだったら、2,000個を半分は生を卵を使うような、そういう試行錯誤する、それだけの費用とか、時間とかを捻出していただきたいというふうに思っていますので。

それから時間がないので、次にいきますが、皆さんのお手元に資料で、奈良新聞の広告が載っていました。広陵町・香芝市共同中学校給食センター。これ10月30日の奈良新聞に大きく完全給食がスタートしました。1日4,000食を調理、安全安心な給食を提供。フルドライシステム採用により細菌の繁殖を抑制、県内初の自動炊飯システムの導入など調理の自動化を行い、ヒューマンエラーの削減を図ります。食物アレルギーを持つ生徒への対応、アレルギー食調理室の設置により代替食、除去食の調理を行いますというのが載っていました。ところがアレルギー、卵、牛乳、イカ、エビ、ごまだけしか対応していない。これ聞いたら全部アレルギーしてもらえんと思うんじゃないですか。ほかの小麦とかのアレルギーの人はお弁当ですよとは一切書かれていないわけです。誇大広告違いますか。

○議長（笹井由明君） 池端教育委員会事務局長！

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） アレルギーにつきましては、従前も御説明をさせていただいた記憶がございます。国は、アレルギーの品目をふやすということは、逆にそれを食べることの不安といいますか、危険度が極端な言い方をさせていただきますと増すと。実質的に今お弁当を持ってきていただいているのもおりますけれども、これを誇大広告ととるかどうかですけれども、私どもはできる限りの5品目で除去食なりで対応させていただいているということでございます。この広告につきましては、町が打ったものではございませんけれども、誇大広告というような認識ではございませんので、御理解をいただきたいと思えます。

○議長（笹井由明君） 3番、山田さん！

○3番（山田美津代君） アレルギーのことなんですけれども、きのう、おとついな、資料をいただいたんですけれども、皆さんの資料のところには中学校給食についてという

ことで、裏に食物アレルギー対応についてとあります。きょう13日に配るというアレルギーの子供さんを持った保護者に対しての配る資料もいただいたんですけども、それは今まで配ってなかったんでしょうか。ここのこの資料だけでしたのでしょうか。それともこれと、あと二、三枚いただきましたね。その資料もこの9月5日から始まったときには配られていたんでしょうか、親御さんに。

○議長（笹井由明君） 池端教育委員会事務局長！

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） 何分初めてのことでございましたので、必要であろうというものについてはお配りをさせていただきました。今回につきまして、改良して、よりわかりやすく、先ほどちょっと先走ってしまいましたけれども、そういう形で配付をさせていただければと考えてございます。

○議長（笹井由明君） 3番、山田さん！

○3番（山田美津代君） きょう配付されている資料には、除去食のことも詳しく書かれていて、それを初めに親御さんが見ておられたら除去食をしますというふうにされたのではないかなと思えるような親切な資料でございました。私そのことをやはり多くのいろいろなアレルギーに対して関心を持ってる親御さん、そして子供が卵を食べて口がかゆくなるけれども、除去食がよくわからないから除去食は要りませんと書いてしまった、たまたまその方がそうだったんですけども、やはりもっと詳しく親御さんに説明をしていけば、中学生の子はかきたま汁を食べなかったわけですから、自分の判断で。除去食さえあるということを知っていたら、卵のっていないお汁を食べることができたわけです。お豆腐なり、ニンジンなり、シイタケなりほかのものが入ったお汁は食べれたわけです。それが除去食ということをつかえない親御さんがおられたので、除去食を希望しないということでお汁そのものが全部食べられなかったということがあったので、ここはやはりもうちょっと学校のほうとも協議していただいて、丁寧に除去食はこういうものなんですよ、そうしないと子供さんが全然食べられなくなりますよというところを丁寧にやっていただきたいというふうに思っています。

そして卵アレルギーの子がきちっとそういうふう除去食を食べれるように配慮をこれからもしていただきたいと思いますが、先日ニュースで、アレルギーの子がケーキが食べられないので、クリスマス用に吉野くずを使い、ケーキを試作したとの報道がありました。とてもおいしそうなケーキでした。こういう工夫が要るんじゃないでしょうか。子供たちに愛情を持っておいしい給食を食べさせたいと思えば、それなりのことができるはずですよ。先ほども申し上げましたけれども、もう3か月以上たち、調理員さんも手がなれてきているんですから、やはりそれだけの準備と費用をかけてあげれば、調理員さんたちも知恵と

工夫でおいしい給食、そしてアレルギーの子にもかわった除去食のものを提供できるようなことができるのではないかなと思いますが、その辺のことはどうでしょうか。

それからちょっと時間がないので、もう一つ教えてほしいんですが、あと各委員会ですね、運営委員会13名、食物アレルギー対応部会9名、献立編成部会6名、物資納入選定部会6名、検討会は8名、こういう部会がありますが、このことをアレルギーのこと、それからこの給食のことを話し合われたのでしょうか。かきたま汁のこともアレルギー部会では話し合われたのでしょうか、それもあわせてお答えください。

○議長（笹井由明君） 池端教育委員会事務局長！

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） 給食をおいしくするということでの御質問でございます。まさにきょうなんですけれども、ちょっとたまたま資料を持ち合わせておりました。デザートセレクトというような名称でチョコレートケーキ、ホワイトケーキ、それと卵と乳抜きイチゴデザートと、この3種類の中からデザートを選んでもらって食べてもらおうということで、きょうそのような形で、事前にちょっと申し込みを聞いてするというような、きょうやらせていただいております。まだ結果を聞いておりませんが、恐らく好評じゃないかなというふうには考えてございます。

それと各部会で、今言われましたような中で、先ほど言いましたように、一つのそういう事例をいただきました。言うているからこれでええわということではなしに、そういうこともあるということで報告もさせていただいて、もちろん検討もさせていただきたいなど。給食をおいしくすることの一連の中で、残食率も減ってきております。そういうところで引き続き努力もしていきたいなど、かように考えてございます。

○議長（笹井由明君） 3番、山田さん！

○3番（山田美津代君） あと配膳なんですけど、この間8日に、広陵中学校の配膳状況を見に行きましたけれども、校長先生は配膳室が混雑するので、近くで見られるのは困るらしいので御遠慮させていただいて、校長先生との懇談と2階の配膳室を見てきました。12時ごろでしたが、2階の配膳室には、食器やおかずの食缶類、御飯が4つのコンテナに積まれて、給食当番の子供たちが来るのを待機していました。ここから生徒たちは、手で食缶を下げて、クラスまで運ぶんですが、これが大変だと言っています。カートで運ぶように、改善はできないのでしょうか。

○議長（笹井由明君） 池端教育委員会事務局長！

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） せんだって、広陵中学校を御見学といたしますか、

見ていただいたものでございます。中学生だから体が大きいから運べるやろうということでは、そういうところで出だしからいっているわけではございません。やはり廊下の幅であるとか、当番の生徒が来て運んでいくと、それで様子を見てやっていこうではないかと。カートということになりますと、今、センター方式でやらせていただいている関係上、まず初めに食器類がいきます。次、おかず食缶がいきます、御飯がいきます。それをまた積みかえなければいけないと。クラス単位とか、2クラスに一つとか、また積みかえなければいけないというようなこういう問題も出てきますけれども、検討材料というところで、考えさせていただきたいと思います。

○議長（笹井由明君） 3番、山田さん！

○3番（山田美津代君） カートに積みかえる手間が大変だと校長先生も言っておられましたけれども、センターからそういうふうに何回かに分けて運ばれてきて、配膳室に三、四十分置いているわけですね。その間に配膳員さんが2階は多分5クラスかな、3階も5クラスかな、4階とか14クラスを三つの3階に分かれていると思うんですが、十分な広さがあったので、5つなら5つのクラスのカーートを置いておいて、配膳員さんがある程度積んでおいたら、子供たちがそれを持っていくだけでいいんじゃないかなと私考えたので、ぜひちょっと検討していただきたいと思います。その答弁いただけますか。

○議長（笹井由明君） 池端教育委員会事務局長！

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） 衛生面のこともございますので、必ずというふうにお約束ができませんけれども、検討はさせていただくというところでもよろしく願いたします。

○議長（笹井由明君） 3番、山田さん！

○3番（山田美津代君） アレルギーを含めて、センターの弱点が露呈して、子供たちがしわ寄せを受けていると言わざるを得ません。でも建設の建て直しはすぐにはできませんけれども、中身の建て直しはすぐかかれると思います。センターを選んだ責任として、センターの弱点をカバーする人数と、おいしいものをつくるんだという熱意を示してください。よろしく願います。それをお願いして、次の質問に移ります。

就学援助入学準備金を前倒しでお願いしたいと思いますが、入学準備金幾らかかると予想していますか。小学校、それから中学校ですね。

○議長（笹井由明君） 池端教育委員会事務局長！

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） 準要保護等の基準がございます。世帯の関係でも全て状況をまだ把握ができておりませんので、どのくらいかかると言われたちょっと試算をするお時間をいただきたいなど。今すぐにはちょっと手持ちでもございませんので。

○議長（笹井由明君） 3番、山田さん！

○3番（山田美津代君） 今、既に入學準備をされておられるときだと思うんですが、ランドセル高いんですね。3万円から上は10万円以上するわけなんです。1万円ぐらいの低価格のものを探すのが大変なくらいです。ほかにも学校の制服や体操服、上靴などそろえていくのは幾らでもお金がかかるんです。小学校で五、六万円、中学校ならもっと7万円ぐらいかかるのではないかなと思います。それを一度支払って、あとで支給するからというやり方はひど過ぎるんじゃないですか。お金がないから就学援助制度を利用するわけですよ。そんな額を支払う余裕があるなら受けたりしません。親御さんがおられる方は親に借りたり、カードローンなどで無理をして子供さんのために準備しておられるのが現状ではないでしょうか。新1年生で新しいランドセルを与えてやりたいけど、お古で我慢させた家庭もあると思います。7日のニュースでタイガーマスク、伊達直人と名乗って、恵まれない施設の子供たちにランドセルを送っていた方が名乗り出られ、御自分も3歳でお母さんが亡くなられ、親戚に預けられ、入学のときみんなランドセルを背負っているのに自分は手提げ袋で入学したと話されていました。そんな思いを子供たちにさせたくない。子供たちは笑顔でいるものだ。笑顔を周りに与える存在だとも話されていました。本当に優しい方だと思います。

そして、前に県営住宅に住んでいた方が入學準備金を用意できなくて、闇金でお金を借りて、そして県営住宅の家賃を滞納していたので、強制退去で踏み込んだら、娘さんを殺していたと。その子供さんを抱きながら、小さいころからのビデオをちょうど見ている最中に強制退去の人が踏み込んだというような悲しい事件が前にありました。あれもこの入學準備金をやみ金で借りたために、そんなことをするようにはめになったという悲しいニュースでございましたが、王寺町では来年の3月支給を実施して決めているわけですね。広陵町でできないことはないと思うんです。文部科学省の小松初等中等教育長は、児童生徒が援助を必要とする時期に速やかに支給できるよう十分配慮するよう市町村に通知していると、日本共産党田村参議院議員への答弁で述べています。通知内容は、平成27年度要保護児童生徒援助費補助金の事務処理について通知というもので、2015年8月24日付です。この通知を御存じでしょうか。9月の決算委員会で私、それを伺いましたら知らないという答弁でしたけれども、教育長は御存じですか。

○議長（笹井由明君） 松井教育長！

○教育長（松井宏之君） いや、私ちょっと見ておりません。

○議長（笹井由明君） 3番、山田さん！

○3番（山田美津代君） この通知は、御留意事項として、市町村がそれぞれの費目を給与する場合は、次に掲げる点に留意することとして、要保護者への支給は、年度の当初から開始し、各費目について児童生徒が援助を必要とする時期に速やかに支給することができるよう十分配慮すること。特に新入学児童生徒学用品等と述べています。これぜひ調べていただいて、悲しいことが起きないように、ぜひ広陵町でもしていただきたいと思うんです。それで八王子市などでも、前倒しで新入学準備金の入学前支給を行うことにしています。準備金は就学援助制度と切り離して平成29年度に小中学校に入学される家庭で、経済的に困難を抱えている保護者に対し、準備金を入学前の3月に支給する制度です。こういう八王子市の例もございますし、やっているところがあるんですから、広陵町でもできないことはないと思います。何でも国の言うままに取り入れている広陵町、なぜこのことだけ言うとおりにしないのか、大変疑問に思いますが、時間がないので、教育長は知らないと言っていますので、ぜひ調べておいてくださいね、この通知。次にいきます。

3番目ですが、奨学金のことです。皆さんのお手元に広陵町の奨学資金支給条例、こういう条例がございまして、今、月5,000円を支給をされている、広陵町は返済することなく支給をされているということで、大変いい制度だと思います。国の動きで2万円から3万円の給付制、返さなくていい奨学金が決まりそうです。でもとてもこれだけでは生活して、勉学に励めません。高校、大学と日本は教育にお金がかかる国です。憲法第26条の教育を受ける権利保障に違反しています。高等学校は民主党時代無償化でしたが、今は年収910万円以下の世帯の高校生は、授業料は無償に変わりました。

でも文部科学省の資料にあるように、授業料公立23万円、一番家計を圧迫しているのは通学関係費で32.9%、7万6,000円です。これの資料もお配りしていたかな。この丸い円グラフのある、この資料ですけれどもね。これの表4-4、高等学校の学校教育費の支出構成を見ていただいたらいいと思いますが。私立では学校納付金32.5%、これが圧迫しています。大学はもっと大変ですね。文系は74万円、理科系103万円、医科系280万円と授業料がかかり、将来値上げも予定されています。日本は世界で2番目に学費が高く、大学進学率も2番目です。日本よりも物価が高いフィンランドの学費はたったの15万円足らずです。OECDの発表では、日本のGDPに占める教育機関への公的支出は3.6%、加盟国で比較可能な30カ国中、最下位です。平均は5.4%なんですね。たった日本は公的支出は、3.6%、それも4年連続です、最下位です。OECDでは、高等教育を受ける人がふえれば、社会への利益還元も大きい、公的な経済支援を充実させていくことが重要としています。県内の市町村でも、教育長の答弁にもありまし

たけれども、幾つか貸付や給付をされていますが、吉野町では、将来吉野町に居住する方へのふるさと吉野定住促進奨学金貸与条例があり、居住すれば返済が猶予される。本町でもこのように居住されたらという条件で、倍の月1万円にするとか、人数を拡大されたら人口減を食いとめられるのではないかと思うんですけれども、いかがでしょうか。

きのうの町長の答弁の中にも、定住促進のさらなる努力や魅力あるまちづくりをしたいと再出馬の意欲を述べられましたけれども、その施策の一つに、こういうことを実行されたいかがでしょうか。

○議長（笹井由明君） 松井教育長！

○教育長（松井宏之君） 奨学金制度につきましては、今ちょっと出ておりました吉野町、特に吉野から奈良県の下の方に当たる部分については、この奨学金制度はかなり充実しているといえます。そういえますのは、やはり少子化とやっぱり過疎化という問題が当然出ておりますので、この辺の子供に対するこういう奨学金制度、また就学援助金というような形ではかなり充実はされているというのが実態でございます。その部分は別にしまして、ほかの部分につきましては、かなりこの奨学金制度をしていないという市町村がかなりあるというところで、今回も御質問いただいて、答弁はさせてもらっておりますが、それぞれ各市町村の方針といえますか、それによって若干かなり違うという部分がございますので、この部分については、ほかと見比べて、どういう形で進んでいくかということも、今後やっぱり検討はさせていただきたいということで、すぐにはやっぱりどういう形で進むというのは、御返事はちょっとできないという状況でございます。

○議長（笹井由明君） 3番、山田さん！

○3番（山田美津代君） 広陵町も3万人の人口を維持していきたいという方針が出ていますやんか。そのためにもやはりこういうことをしていかなければいけないと思います。高校生、大学生への経済的支援は、将来の子育て世代への支援や貧困の連鎖をストップさせる対策にもつながります。ほかの近隣の自治体がやっているところが少ないからというんじゃないで、広陵町はこんないいことをやっているんだから、先例にして、ここでもやっといこうということになるように、ぜひ積極的に御検討いただきたいと御要望して、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（笹井由明君） 池端教育委員会事務局長！

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） 先ほどの今、終わりますと言っていましたけれども、町の奨学金制度の関係で、手持ちの資料の中から基準額だけを申し上げたいと

と思いますが、お時間よろしいでしょうか。

○議長（笹井由明君） はい。

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） 小学校と中学校と違います。小学校1年生の場合、学用品とか新入学のそういう学用品費とか、校外の活動費とかでございますが、小学校1年生の場合、支給年額が7万8,710円、2年生から4年生が6万980円、5年生が6万4,450円、6年生が6万980円、中学校にいきますと、中学校1年生は同様に学用品費等で、年額8万1,940円、2年生が5万7,550円、3年生が5万5,370円という形でございます。それと人数的には、今準要保護の児童生徒数、小学校を合わせまして、94名おられます。12月の段階でございます。中学校では、両中学校を合わせまして、60名ということでございます。金額はおのおのにその上限に到達する場合も到達しない場合もございます。そのようなところで申し上げたいと思います。貴重な時間済みませんでした。

○議長（笹井由明君） 以上で、山田さんの一般質問は終了しました。